

## 令和5年度 自己評価書

### 令和5年度学校評価の基準

4 (強くそう思う)・3 (おおむねそう思う)・2 (あまりそう思わない・一部改善が必要である)・1 (まったく思わない・改善が必要である・分からない)  
 <職員アンケート考察>

#### 1 割合が3.0以上の項目について

- 22項目で3.0以上を達成した。全27項目の約半数が達成十分となっており、この結果は、本校職員が日頃から学校経営方針やグランドデザインの理解に努め、高い意識で学校運営や教育活動に取り組んでいる現れと理解できる。
- 3.2以上の項目は、特にその傾向が顕著であり、これまでの取組の大きな成果と言えるが、引き続き取組の内容や質の維持・向上に努めていく必要がある。
- 一方、3.0以上の中でも下位に位置する次の2項目(3.03、3.02台)については、より達成度を高めていくために次年度に向けた業務の改善や意識の向上が求められる。

学校評価項目	割合	考 察	備考
3 学校は「個別の指導計画」を活用し、確かな学力等を育む授業展開をしている	3.02	時間をかけて丁寧に作成している「個別の支援計画」を効果的に利用できていない現状があり、様式等の見直しをおこない、効果的に確かな学力等を育む授業展開ができるように改善が必要である。	
9 学校は研修で学んだ事柄を日常の実践に生かしている	3.03	学校研修や外部研修に積極的に参加し、スキルを身に付けているが、日常の実践に生かし切れていない現状がある。また、各自の持っている知識等の共有がなされることによって更に全体の教育力向上に繋がることから、環流報告との充実や研修が必要である。	
10 学校は授業、教材準備、評価、校務等にITCを活用している	3.03	授業や教材準備などには積極的に活用できている現状ではあるが、評価や校務等での活用は進んでいない。今後は校務等での活用を積極的におこない、業務の効率化に繋がるような環境が必要である。	

- さらに、次の4項目については、学校経営の基本的な考え方として、「①成果があった」の選択が100%となるよう高い意識を持って取り組んでいかなければならない項目であり、そのための対応策として何ができるのかを考える必要がある。

学校評価項目	割合	考 察	備考
12 いじめ・体罰	3.30	いじめの防止については方針の共有や適切に指導を行うことができおり、今後も高い意識を持って取り組んでいく必要がある。 また、適切な言葉遣いや態度で、体罰のない環境づくりにおいても高い割合となっており、児童生徒の関わりについて努めていると考えられる。	
13	3.27		
19 服務について	3.20	服務について、各自意識を持って取り組んでいる。次年度も意識を高める研修等の取組を引き続き進めていく必要がある。	
20	3.17		
14 危機管理	3.10	危機管理の全体評価としては決して低くない数値ではあるが、次年度危機管理マニュアルの改善や訓練は毎年行われ整備されているが、有事の際の準備にまだ不安と考えるので、環境整備を進めていく必要がある。	
15	3.18		
16	3.17		

2 3・0未満の項目について

○26項目中5項目が3.0未満に該当した。これらの5項目については、今後も更に改善及び意識の向上が必要な項目と捉えることができる。各学部・寄宿舍・行政ごとの数値に着目し、それぞれが3.0未満の項目について課題を考察し、新年度計画に反映させていくことが求められる。

学校評価項目	割合	考 察	備考
21 学校は、効率よく業務にあたり、時間外勤務縮減に取り組んでいる	2. 85	働き方改革を意識し、時間外勤務の縮減に向けて業務の平準化などを行っているが、学部間での格差が出ている。 定時退勤日を設けていてもなかなか定時で帰宅できないことから、次年度さらなる縮減に向けて、各学部での取り組みを進めていく必要がある。	
25 学校は教科別指導を適切に実施し、効果を上げている	2. 93	各学部の児童生徒の実態（個）に応じた教育課程の編成を行っている中学部において、工夫し取り扱っているが効果を上がるまでいっていない。次年度高等部も児童生徒の実態（個）に応じた教育課程の編成を行っていく必要があるため、教職員の教育課程の基礎的な研修等を進めていく必要がある。また知的障がいのある児童生徒の教育課程についても一層の理解が求められる。	
26 学校は教科・領域を合わせた指導を適切に実施し、効果を上げている	2. 92		
29 学校は一人一人の社会的・職業的自立に向け、キャリアの視点を持ち、小中高学びの連続性を意識して指導している。	2. 97	学校全体への進路に関わる情報の発信が必要である。さらには、福祉施設、就労に関する現状を教職員に伝える進路研修会の実施し進路指導がどのような業務をしているのか、施設、事業所の現状を発信する。進路に関わる校内研修（進路指導状況等）の実施。将来、どのような場所でどのようなことをして生活するのか、卒業生の状況や実習、現在の社会状況、福祉施設の状況など。 また、キャリア教育との関連も踏まえ、事業所の施設見学や報告会と小学部段階から取り組む必要がある。 次年度各学部のコーディネーターが中心となり、取り組んでいく。	
31 学校は食育・食事の指導を適切に実施し、効果を上げている。	2. 76	給食費の不足から、行事食などを提供することが難しく、給食での食育が難しい現状があったが、次年度から給食費の値上げにより、工夫した給食提供をし、食育ができるように対応していく。 発達年齢等を配慮しながら 児童生徒の実態に応じた食事指導の共通理解や実態に応じた計画等の作成と共有を行う必要がある。	

3 昨年度R4年度と比較し数値が低かった項目について

○今年度は評価の下がった項目はなく、昨年度からの改善が行われたと考えられる。

<保護者アンケート考察>

1 3. 20以上の項目について

- 全20項目中全項目で3. 20以上を達成した。保護者から学校や教職員が高い評価を得ていることが結果として現れた。
- 特に「1：健康・衛生・疾病予防（コロナ含）」及び「6：教科別指導」「7：教科・領域を合わせた指導」「8：自立活動」「11：食育・食事」「12：個別の教育支援計画」「26：体罰」は、特別支援教育で最も重要と思われる項目であり、学校の教育活動や教育内容への期待と信頼の高さがうかがえる。
- 一方で、評価下位に位置する2項目については、しっかりと課題を考察し、達成度を高める努力をしていく必要がある。

学校評価項目		割合	考 察	備考
4	学校は進路に関わる説明や相談をわかりやすく丁寧に行っている	3. 26	学部によって、指導体制が整っていないことで、進路相談などが効果的に行われていない状況があった。次年度は各学部配置のコーディネーターが中心となり、情報を提供できる体制整備を行っていく。	
5	学校・寄宿舎間で必要な情報を共有し、積極的に連携を図り、指導を行っている。	3. 26	保護者からの問い合わせに対し、学校・寄宿舎間での情報共有が即時に行われていないため、内容等即時に回答できないことがあった。学担・室担との情報共有が必要である。	

○さらに、次の2項目については、教職員アンケートと同様に、100 %となるように高い意識を持って取り組む項目であり、そのための対応策として何ができるかを考える必要がある。

学校評価項目		割合	考 察	備考
14	危機管理	3. 42	個人情報取り扱い・安全管理・危機感にマニュアルの整備等の危機管理について、教職員と同様に保護者からも高い評価を得ているが、有事の際の見直しのポイントはまだ数多くあると思われる。	
15		3. 39		
16		3. 39		
17	サービス	3. 45	教職員の服装等、いじめ、体罰、言葉遣い等の評価について比較的高い評価を得ているが、今後も慎重に受け止めなければならない。不適切な指導や人権などについて、研修などを行いながら、今後も細心の注意を払って教育活動を進めていく必要がある。	
25	いじめ	3. 48		
26	体罰	3. 52		

## 2 昨年度より下がった項目について

○全体的な評価が昨年度から下がってはいるが、数値的には高い評価を受けている。下がった2項目について、次の考察を参考に、新年度計画に反映させていくことが必要である。

学校評価項目	割合	考 察	備考
14 学校は個人情報情報の取り扱いに十分注意し、事故防止に努めている。	3.42 - 0.32	誤配等の事故は起こってはいないが、個人情報については保護者が不安に思われていることが分かる。個人情報の取り扱いについてはマニュアルを整備し、誤配等が起こらない、起きても中身が分からないように封筒に入れる、チェックが行える体制を取り、安心してもらえる体制整備を行い、対策を行った。	
10 学校は児童生徒の健康・衛生・疾病予防（新型コロナウイルス含）に努めている。	3.35 - 0.24	今年度猛暑のため、学校休業、寄宿舎閉鎖を行った。暑さ対策については、熱中症対策として、エアコン設置の必要性が多くあった。また、学校施設の老朽化による安全上の問題が指摘されているため評価が下がったと考えられる。	

## 3 3.2未満の項目について

○今年度については下回る項目はないため、保護者からは一定の評価を得られていると考えられる。

### <考察についての総括>

今回の結果は、教職員アンケート保護者アンケートともに、非常に高い数値を示しており、教職員の高い意識や努力が本校の教育活動の土台となっており、そのことで児童生徒や保護者が学校を信頼し安心して学習できる環境につながっていると考える。

職員アンケートと保護者アンケートの共通項目の考察を比較すると、同じような傾向があり、連動性が高いことが確認できる。今後の方向性として、項目ごとに細かく考察した内容について担当部署で検討を進めていくこととなるが、共通項目については、教職員アンケートの課題を解決することが保護者アンケートの課題解決に直結していくと考える。